

日本原子力学会核燃料部会

平成16年第5回運営委員会議事録(案)

日時 : 平成17年3月30日(水)10:00~12:00

場所 : 東海大学湘南キャンパス 17号館 会議室1

出席者 : (順不同 敬称略)

山脇部会長、山本殿(次期副部会長)、来山殿(森副部会長代理)、安部田委員、伊東委員、大澤委員、儀宝殿(大沢委員代理)、木下委員、木原委員、佐藤委員、萩委員、林委員、更田委員、藤田(千)委員、森山委員、米田委員

議事

1. 前回議事録確認

大澤委員から前回議事録及び総会議事録が報告され、誤記訂正の後、本運営委員会にて承認された。

2. 総会配付資料確認

大澤委員から総会資料案が紹介された。平成17年度の業務担当で林委員が国際活動と国内企画で兼務となっているが、業務量を勘案して国内企画はNFDの平井委員の担当に変更し、総会に提案することとなった。

3. 水炉燃料国際会議(2005年)開催について

木下委員から資料3にて報告された。

- ・最終的に122件集まった。発表の数が多く、優秀な内容が多いので、4日間フルに使い、テクニカルツアーを取りやめとした。
- ・プログラム委員からオーラルが良いという申し出が48件上がった。オーラルは20分の説明と5分のディスカッションを行う予定。5月1日までにフルペーパーをもらい、振り分けをする。
- ・査読期間にペーパーからいくつか選び、ジャーナルへの投稿を推薦する。

4. 学会春の年会での合同セミナーについて

来山委員(森副部会長代理)から資料4にて報告された。

- ・核燃料部会の担当部分は、山中伸介氏(阪大)、木下幹康氏(電中研)、Jong-Hyuk Baek氏(KAERI)が発表した。

山本次期副部会長から2005年3部会合同日韓夏の学校の開催について紹介された。

- ・8月1日(月)~3日(水)に東義大学(韓国、釜山市)にて行う。
- ・講演者は、日本からは各部会10名程度を派遣し、韓国からも数名ずつを想定。
- ・両国の大学院学生を対象に夏の学校として参加し、聴講してもらう。
- ・講師の旅費等に関しては京大エネルギー理工学研究所の日韓拠点大学交流からの支援を検討する。
- ・3月中に各部会にてスケジュールの検討を行い、4月に講師の推薦、依頼をする。5月に一般の参加者を募集する予定であることが紹介され、了承された。また、窓口は山本次期副部会長が行い、担当は国内企画の平井委員が行うこととなった。

5. 平成17年度夏期セミナーについて

安部田委員から資料5にて報告された。

- ・セッション1では新型燃料の開発の現状、セッション2では軽水炉燃料開発の最近の取り組み、セッション3では地元の話(歴史と風土)を行う。
- ・燃料の課題についてパネルディスカッションを行う。
- ・PWR/BWRのロードマップについてGNF、原燃工から発表する。
- ・材料開発の取り組みでJNESより燃料安全研究について紹介してもらう。
- ・燃料支援技術の高度化で、海外からはハルデン、スタズビックから最近の照射試験技術を紹介してもらう。
- ・セミナープログラム概要は承認された。ただし、海外の情報(IAEAのこぼれ話)としてIAEAの福田氏の参加を検討することとなった。

6. 平成18年度夏期セミナーについて

米田委員から資料6にて報告された。

- ・平成18年度夏期セミナーの担当は大阪大学と日本原燃となる。
- ・青森県内の温泉を予定しているが、平成17年度の原子力学会秋の大会が八戸工大にて行われることから、秋田や岩手も候補として再度検討することとなった。

7. 部会HPについて

木原委員から資料7にて報告された。

前回(平成16年9月16日)以降の改訂内容は次の通り。

- ・運営委員会議事録を更新:1/12更新
- ・総会議事録を更新:1/12更新
- ・運営委員会名簿(和・英)を更新:1/12更新
- ・第20回核燃料夏期セミナー企画状況を追加:1/12更新
- ・核燃料部会報No.40(2005年1月発行)目次を更新:3/25更新

今後の予定は次の通り。

- ・H16年第4回核燃料部会運営委員会議事録の更新
- ・H16年第5回核燃料部会運営委員会議事録の更新
- ・日韓合同夏期セミナー及び次回夏期セミナーのHPへの掲載

8. 学会誌への連載講座について

来山委員(森副部長代理)から、資料8にて連載講座がすべて終了した旨報告された。

- ・原稿の電子データは、廃棄することとなった。図、写真でオリジナル性のあるものは著者に返すが、部会としては保存しない。
- ・今後連載講座の取り纏めを検討することとなった。

9. 部会報について

萩委員から口頭にてH17年1月に部会報が発行されたことが報告された。

- ・夏期セミナーの報告の参加者リストの掲載が提案されたが、個人情報保護法に抵触しない範囲で記載する方向で検討することとなった。

10. 部会員への連絡方法アンケート結果について

大澤委員から資料10にて報告された。

- ・メールアドレスを持っていない部会員に対し、希望の連絡手段のアンケートをとった結果、アンケート人数 64人に対し、返信が36、無回答が25、不通が3であった。返信のうち連絡希望は、e-mailが16人、FAXが10人、郵送が8人、連絡不要が5人であった。
- ・連絡を重複して希望している会員(3名)については、複数の連絡を行わずe-mailを優先とし、次にFAX、郵送という順として連絡することとなった。
- ・連絡時期は、部会報が年2回だった当時と同等の連絡回数とするという観点から、部会報が送付されてから半年後を目安に連絡を行うこととなった。
- ・連絡手段の情報(案内)は部会報、連絡に毎回記載することとなった。

11. 平成17年度核燃料部会の役員と担当について

大澤委員から資料11にて報告された。

- ・副部長について、原燃工の森副部長からGNFの山本次期副部長への交替、原燃工の委員について、森副部長から来山委員への交替が了承された。
- ・JNESの林委員が国際活動、国内企画の両方を担当することになってしまうため、H17年度の国内企画はNFDの平井委員が担当し、林委員はH18年度の担当に変更することとなった。
- ・JNC、JAERIは平成17年10月1日より新法人となるが、新法人の日本原子力研究開発機構から2名選出して欲しいという希望を出すこととなった。

12. その他

大澤委員から核燃料部会 平成16年度実績予想及び平成17年度予算案(資料12-1-1, 2)、部会員の推移(資料12-2)、委員名簿(資料12-3, 4)、歴代運営委員一覧(資料12-5)が報告された。

- ・平成16年度の決算は収入が482,568円、支出が675,065円で収支差額が▲192,497円となった。平成16年度決算の支出が増えている理由としては、会報印刷費の決済が平成15年度中に完了できず、平成16年度に持ち越されたためである。
- ・平成17年度予算は、収入が配付金収入277,000円、夏期セミナー残金70,000円の計347,000円となった。支出の見込みは431,000円であり、収支差額は▲84,000円の見込みである。
- ・会員数は着実に増加しており平成17年3月23日現在で395名である。

今後の予定

- ・平成17年度第1回運営委員会 平成17年5月予定
- ・平成17年度第2回運営委員会 夏期セミナー時 於:鳥海温泉「遊楽里(ゆらり)」
- ・平成17年度第3回運営委員会、及び会員総会 平成17年秋の大会時 於:八戸工大

以上

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)